

# 平成 29 年度 事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 3 1 日

平成 30 年 7 月

**日本脱塩協会**  
(Japan Desalination Association)

# 平成29年度日本脱塩協会事業報告書

## 目 次

I . 会務および会議 . . . . .	2
II . 委員会活動 . . . . .	12

# I. 会務および会議

## I. 1 会員および役員

表1 会員数一覧（年度末基準）<<2018/03/31 現在>>

会員区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
法人会員 (クラス1)	18	18	18	20	23
個人会員 I (クラス2)	14	15	14	15	14
個人会員 II (クラス3)	1	0	2	2	1
特別顧問	5	5	5	5	7
特別会員	71	72	II 35	II 36	II 40
特別会員 III	—	—	53 (内重複 10)	56 (内重複 10)	59 (内重複 13)
提携会員	4	4	4	4	4
合計	113	114	121	128	135
(参考)IDA	52	53	53	56	59

表 2 平成 29 年度日本脱塩協会役員名簿 <<2017/12/31 現在>>

役職	氏名	所属	役職
会長	岩橋英夫	三菱重工業(株)	エンジニアリング本部プロジェクト総括部水プロジェクト室技監・マネージングエキスパート 【JDA フォーラム委員会】<APDA 理事>
副会長	藤原信也	東洋紡(株)	参与 機能膜事業総括部長 <IDA 理事、APDA 理事>
副会長	丸山 義治	三井物産プラントシステム(株)	海外プロジェクト本部本部長補佐【今後のビジョン委員会】
副会長	黒川秀昭	(株)日立製作所	産業・水業務統括本部技術開発本部主管技師長 【IDA 委員会】<IDA 理事>
理事	房岡良成	東レ(株)	水処理・環境事業本部、水処理事業部門参事(技術渉外担当) <IDA 理事>
理事	志方 守	(株)ササクラ	執行役員 東京支社長
理事	滝沢 智	東京大学	大学院工学系研究科都市工学専攻教授
理事	松山秀人	神戸大学	大学院工学研究科 教授、先端膜工学センター長
理事	小川高史	旭化成(株)	膜・水処理事業部 主幹技師
理事	正田位守	日東電工(株)	メンブレン事業部 開発部長
理事	松井康弘	メタウォーター(株)	海外事業部海外センター新事業開発部課長 【広報・情報委員会】
理事	東郷育郎	安全保障貿易情報センター	輸出管理アドバイザー兼該非判定アドバイザー
理事	平井光芳	造水促進センター	顧問 【総務担当】
理事	竹内 弘	東レ(株)	顧問 【総務担当】
監事	浜田耕一	(株)電業社機械製作所	執行役員 営業本部海外部・産業システム技術部統括兼 営業本部海外部長
監事	石井信好	水道機工(株)	プラント事業部事業管理部部長補佐
特別顧問	木村尚史	東京大学	名誉教授
特別顧問	大矢晴彦	横浜国立大学	名誉教授
特別顧問	宮武 修	九州大学	名誉教授
特別顧問	後藤藤太郎	元造水促進センター	JDA 元会長
特別顧問	竹厚 勲	元住友商事	JDA 元会長
特別顧問	栗原 優	東レ(株)	JDA 元会長、<APDA 会長、IDA 理事>、【APDA 委員会】
特別顧問	秋谷鷹二	元造水促進センター	JDA 前会長 【表彰審査委員会】

## I.2 会務

### I.2.1 総会

#### (1) 第17回総会

日時:平成28年7月28日(金)14時00分～17時30分

場所:東レ(株)日本橋本社25階A会議室

#### 議事内容

(1)会長挨拶 日本脱塩協会 会長 秋谷鷹二

(2)議案の審議

第1号議案 平成28年度事業報告について

第2号議案 平成28年度決算について

第3号議案 平成29年度活動計画および収・予算について

第4号議案 平成29年度役員の異動について

上記議案を審議の上、原案どおりに承認された。

出席者数34名(議決権数288)、委任状22名(議決権数187)、有効議決権数は475で総議決権数491の過半数(96.7%)。

(会則24条の特別議決の要件である3分の2以上も満足)

### I.2.2 理事会

#### (1) 第70回 理事会

日時:平成29年9月19日(木) 15:00～17:15

場所:東レ本社25階2519会議室

#### 議題:

1. 海水淡水化の国際標準化について(造水促進センターからの依頼)
2. 次回JDA FORUM開催内容について
3. JDAホームページの改訂について
4. その他

会の成立:理事総数14名中、出席8名、代理1名、委任状3名、計12名出席にて本会は成立。

#### 議事:

1. 海水淡水化の国際標準化について

造水促進センターからの依頼にて、ISOにおける取り組みについて情報交換を行った。この中で、中国側の働きかけによる標準化案が採択されれば、ビジネスへの影響が大きいことから、JDAとしても造水促進センターの考え方に賛同した。

2. JDA フォーラム(岩橋委員長)

2月15、16日開催予定のJDAフォーラムについて、海水淡水化及び環境・水再利用分野の著名な専門家であるニコライ夫妻を招聘する考えを説明。好評であった前回フォ

フォーラムの知見と今回実施したアンケートの結果を反映し、次回フォーラムの基本的な枠組みは、1日目を講演とパネルディスカッション、2日目を個社面談会とする。1日目の講演会参加費は前回より安く設定し、個人が参加しやすくするが、2日目の個社面談会を今回は有料化し、収支バランスを取ることが提案され、承認された。海外からの参加にも一定の枠を設けるので、11月のKDPA会議までに本フォーラムの紹介資料を準備する。

### 3. JDA ホームページ（松井委員長）

JDA 活動の情報発信を積極的に推進するため、現状ホームページの刷新を検討してきたが、現行 HP (au one net) が 10 月末に終了となることから、ホームページの引越し準備と試験運用を行ってきたので、その概要の説明を行った。

今後、追加修正の上、暫定版として HP を公開し、会員各位の意見を頂戴しながら、更に改良を加え、10 月中に正式版としてリリースする予定。

## (2) 第 71 回 理事会

日時：平成 29 年 12 月 13 日（水） 15:00～17:00

場所：東レ本社 25 階 2526 会議室

議題：

1. 2018 JDA FORUM プログラムについて
2. 更新された JDA ホームページについて
3. InterAqua2018 展示会の JDA PAVILION について
4. JDA 新入会員との打合せ
5. その他

会の成立：理事総数 14 名中、出席 6 名、代理 3 名、委任状 4 名、計 13 名出席にて本会は成立。

議事：

#### 1. 2018 JDA FORUM プログラムについて（JDA FORUM 委員会）

##### 1) 2018 JDA FORUM プログラム

JDA FORUM (2 日間) のプログラム構成について、Nikolay 氏は「海水淡水化」、Valentina 氏は「水再利用」とすることで決定した。

フォーラム参加者の「聞きたい・知りたい内容」については、昨年度と同様、会員企業向けのアンケートを行う。

2 日目の参加費が高いのではとの意見が出され、2 日目を無償とする条件の見直しを行うことになった。1 日目に 3 人以上参加の場合には 2 日目の参加料 (1 枠分) を無料とすることで試算の結果、個社面談枠が全て無料でも 1 日目 67 名の参加で収支トントンになると試算されることから、本案は妥当であると判断した。

##### 2) JCD 業務委託契約及び覚書

本契約及び覚書は例年と同様であること、また見積内容も妥当であることから、協議の結果、問題なしとして承認された。

##### 3) JDA Forum\_申込・登録について、上記の参加条件の内容を反映させるため、登録フォ

ームの修正を行うこととした。

2. 更新された JDA ホームページについて (JDA 広報情報委員会)

各社からの情報提供について、現状では 4 社からの写真提供に限られているとの報告があった。新入会員をはじめ、積極的にこの機会を活用すべきとの意見が多くの理事から出された。

Global サイトでの発信内容の絞り込みについて起案した。本件については、個別の委員会で検討すべきとの意見が出された。

尚、JDA Home Page を紹介したところ、従来と較べ、各段に向上していること、簡潔にまとめられており、たいへん良く出来ているとの意見が出された。しかし、トップ画面から個別サイトを閲覧することに関しては違和感があるので改良すべきであるとの意見が出された。

3. InterAqua2018 展示会の JDA PAVILION について (事務局)

本展示会に多くの会員 (全 9 社) が参加予定であることを報告。

JCD から展示スペース倍増 (2 小間から 4 小間に) の提案があったことを報告。

但し、商談スペースは JDA フォーラム 2 日目の個別面談室の 1 室として使用することから、外部からは見えないようにカーテン等を設置する工夫が必要である。

4. JDA 新入会員との打合せ (JDA 会長)

JDA の活性化に繋げるため、JDA 新入会員様との意見交換を行っているとの報告が会長からあった。

5. その他

JDA との連携について提案があった。大学間の連携であることから、松山先生にご紹介することとした。

### (3) 第 72 回 理事会

日時：平成 30 年 3 月 15 日 (木) 15:00～16:40

場所：東レ本社 25 階 2519 会議室

議題：

1. JDA フォーラム開催結果報告 (審議)・反省会 (協議)
2. 来年度計画 (含、役員人事) (協議)
3. その他

会の成立：理事総数 14 名中、出席 9 名、代理 0 名、委任状 2 名、計 11 名出席にて本会は成立。

議事：

1. JDA フォーラム開催結果報告 (審議)・反省会 (協議)

1) 2018 JDA FORUM の収支計算書、見積書、同登録状況 (最終結果) について事務局より報告。関係者の精力的な勧誘活動を行った結果、参加人数は当初設定 52 名に対し 62 名に増加できたが、個社面談の有料枠を埋めきれず、結果的に収支はマイナス 83 千円となった。有料登録人数で見ると 2～3 名の未達であった。審議の結果、JCD の収

支計算書を承認、当月内に折半分担金の支払いを行う。

2) 2018 JDA FORUM 当日のアンケート結果について報告。自由記述欄では、世界トップの技術レベルに触れることが出来た、幅広い内容を短時間に学べた等々、業務に有益であったとの高評価の記述が多く、前年度対比の集計結果でも高評価であったことが伺える。一方、参加費は高いとの評価であるが、昨年比で見ると非常に高い割合が減り、適切であるとの評価が増加した。以上の結果から、総合的に判断するとコストパフォーマンスが良かったと評価できる。従前から JDA FORUM の参加費は高いことが周知されており、それなりに評価して頂いている方々も多いと言えよう。

3) JDA FORUM 開催実績（過去 10 年分）について、収入・コスト、有料参加者数について集計した結果を報告。当初の 2 回分を除くと、概ね参加者数は 40~60 名。収支は前回のみが黒字。今回は赤字ではあったが、過去の赤字幅と比較すると赤字幅は最も小さかった。本 FORUM は営利目的ではないので、収支プラスだけを目指すものではない。開催当初は財政状況に余裕があり、収支マイナスが許容されていたが、近年は財政状況が逼迫してきたので、大きな赤字は避けたいところである。今回の FORUM を前回と比較すると、収入総額は変わらなかったが支出総額が増加した結果、前回の黒字分が消失した形となった。参加料が高いという前回の反省を踏まえ、今回は参加料を下げて登録者数の増加を狙った。その狙いは達成できたが、支出増に見合った収入増には繋がらなかった。

これらを踏まえ、JDA FORUM のあり方を検討する必要がある。例えば、開催時期の見直し、個人でも参加が可能なように参加料の見直し、公的資金の活用可能性検討、開催場所の見直し、運営体制の見直し、JDA の組織体制の見直し（法人化検討）、等々。

## 2. 来年度計画（含、役員人事）（協議）

1) 法人会員の代表者変更届け 2 件を報告、これに伴う役員名簿の変更について協議した結果、JDA 会則（第 12 条）に従い次のように決定。各新役員の就任については打診の上、名簿変更を行う。

<旧>役職：副会長、氏名：丸山義治 → <新>役職：理事、氏名：石井嘉彦  
(3/19 受諾確認)

<旧>役職：理事、氏名：志方 守 → <新>役職：理事、氏名：中村克平 (3/19 受諾確認)

2) 上記のように代表者変更に伴い委員会活動の新体制についても協議を行った。主要点は次のとおり。

イ) 昨年行われた IDA 役員選挙の結果、黒川副会長（現・JDA 代表の IDA 理事）が IDA 理事選挙に立候補し、当選されたことに伴い房岡理事が黒川副会長に代わり JDA 代表の IDA 理事に登録された。尚、藤原副会長は IDA 役員選挙に再選された。この異動に伴い、IDA 委員会の委員として房岡理事を追加。（注：JDA 代表の IDA 理事の役割は、JDA の活動状況を年 2 回 IDA へ報告すること）

ロ) 空席となった今後のビジョン委員会の委員長は、岩橋会長が兼務する。また同委員会委員として志方氏の後任として中村氏。

ハ) 表彰審査委員会委員の丸山氏の席は空席とする。

ニ) 広報・情報委員会の名称を、広報・次世代委員会に変更。業務内容に次世代リーダー発掘を追加。

3) 29 年度予算実績の管理状況を報告。当期収支差額は予算 - 376 千円に対し、現時

点の見通しは+63千円であり、前期並みの次期繰越となる見込み。HP更新に予備費の約50%を充てたが対予算としてはまだ余裕がある。尚、会員専用のHPを作成することが提案され了承された。本件は、JDAの活性化と会員増に繋がることが期待出来るので、早期実施が好ましいとの意見が出された。尚、HPの閲覧件数であるが、通常1日当たり10件程度のところ、JDA FORUM期間中は150件程度に増加し、この面からも関心の高かったことが解る。

- 4) 第18回総会第1号議案に掲載する会員数一覧表について報告。法人会員が3社増となったが今後も法人会員の勧誘活動を継続する(会長マター)。候補企業は、横河電機、日揮、日立造船、荏原製作所、水ing、旭有機材、堀場製作所、等。

### 3. その他

- 1) 功労賞、特別賞の受賞者選考について：今回は第4回目となるが、今回から(本来の規約のとおり)会員の推薦を受けることになった旨、表彰審査委員会委員長代理の東郷理事から報告された。受付期限は3月末日。4月に表彰審査委員会で審議し、会長に報告、承認を得る段取りである。
- 2) JDA事務所の移転について：現在の日本橋事務所の契約期間が7月末日で満了になるのを機会に、JDAの若手活性化(次世代リーダー発掘)に繋がる事務所スペースのある場所を@横浜で検討していることを会長から報告。コスト面のこともあり、まだ公表出来る段階ではないが、現契約の満了通知期限(確認中)までに結論を得る。
- 3) 現広報・情報委員会委員長(松井理事)から、JDA FORUMの活動状況を経産省にインプットしていることを紹介。経産省はJDAとタイアップできるとの示唆があった由。プラント輸出に繋がる国の公募情報等をJDAのHPで会員に紹介するため、会員専用コーナーの設置を推進する。

### (4) 第73回 理事会

日時：平成30年5月9日(木) 15:00~16:40

場所：東レ本社25階2519会議室

議題：

1. 総会(7月18日)議案(協議)
2. 委員会活動(報告及び協議)
3. 次期JDAフォーラムについて(協議)
4. その他

会の成立：理事総数14名中、出席9名、代理1名、委任状4名、計14名出席にて本会は成立。

議事：

冒頭で、新理事に就任された石井氏から就任のご挨拶があった。

1. 総会(7月18日)議案(協議)

総会全体議事：特別講演会のプログラム及び懇親会場(今回から変更)について了解。

第1号議案：I会務及び会議、II委員会活動について現時点までの資料を事務局から報告。第73、74回の理事会及び各委員会の活動について未記載部分の追記及び委員会

名称の修正等を次回理事会（第74回）までに行うこと。

第2号議案：収支計算書について事務局から報告があり、特に異議はなかった。次回理事会までに、監査を受けて決算書を完成要。

第3号議案：各委員会活動について報告。

IDA委員会について、IDAの今後のスケジュールについては解り次第追記する。

広報・次世代委員会について、ホームページの内、特に会員専用のコンテンツ充実を図る。

今後のビジョン委員会について、同委員長（会長）から当協会の法人化について検討を行う小委員会（委員は、副会長、松井理事、総務担当理事で構成）を設置予定であることを報告。主目的は当協会の活動活性化を目的に国の補助事業を受託できるようにしたいとのことであり、法人としての事業計画を策定の上、年度内に新体制の立ち上げを目指す。このため、必要に応じて臨時総会の開催を検討する。

収支予算について、法人会費を+1社分増額及びHP維持・更新費をそれに見合う額を経費として増額。JDA活動活性化及び法人化検討費は、いずれも予備費として計上。

例年同様であるが、約40万円のマイナス予算となっている件について質問があった場合は、“将来の布石”としての費用であると説明する。

第4号議案：房岡理事を副会長に推挙する提案があり、承認された。本件は、総会承認事項となる。

第5号議案：事務所の設置場所について、東京都限定を外し、日本国内に設置できるように変更することが承認された。本件は、総会承認事項となるが、会則第24条、総会の特別議決に相当することから、会員全議決権の3分の2以上を有する会員の出席を要する。

第6号議案：本件は委員会の規約改定であることから、議案ではなく報告とすることに修正。

事務局の移転について資料17にて報告。

特別講演会について資料18にて報告。プログラムの順番については、本案のまま承認。

## 2. 委員会活動（報告及び協議）

APDA委員会：資料22にて報告。シンガポールで開催予定のAPDAジョイントカンファレンスの現時点のプログラム案を説明。中国 Vontron 社の講演が注目される。

表彰委員会：資料26にて報告。功労賞受賞者について会長から理事会へ報告があり、承認された。但し、理事会への報告資料については修正が必要。受賞者への事前案内は、会長名で事務局から発信する。

表彰委員会規約の改訂案が提案された。第3条2項で、特別賞（奨励賞）を新設する提案であるが、判断基準が不明確なことから本項は削除とし、それ以外の修正は承認された。

上記の二委員会の他の委員会活動については、第1項、第3号議案の報告事項を参照。

## 3. 次期JDAフォーラムについて（協議）

当協会の活性化を目指す法人化を優先するため、JDAフォーラムの開催をパスする案が提案されたが、大赤字ではなくなったので、続けておくべきとの意見が出された。法人化の件とあわせ協議の結果、例年同様、InterAquaとの同時開催を前提にした来年度仮予約の有効期限である7月末までに、次年度以降も含めた今後の方針を決定す

ることになった。現在仮予約している例年同様の案は、開催時期が旧正月（春節）に近いため、中国、東南アジアからの参加を見込むことが困難である。そのため、中国、東南アジアからの参加を見込むためには、開催時期を見直す必要があるが、JCDに会期変更をお願いすることは困難であることから、JCDの支援無しで、JDAが独立採算で行う覚悟が必要であり、費用面、要員面で、今後検討を要す。

## (5) 第74回 理事会

日時：平成30年6月19日（火）15:00～17:00

場所：東レ本社6階601B会議室

### 議題：

1. 総会（7月18日）資料の審議・確認  
式次第及び第1～5号議案  
報告事項（2件）
2. 委員会活動（報告）
  - （1）APDA委員会（栗原顧問）
  - （2）JDAフォーラム委員会（岩橋会長）
3. その他  
退会届・クボタ  
退会時の年会費取扱い

会の成立：理事総数14名中、出席9名、代理1名、委任状3名、計12名出席にて本会は成立。

### 議事：

大阪市北部地震の影響で2名の役員が欠席となった（委任状有）。

1. 総会（7月18日）資料の審議・確認  
式次第及び第1～5号議案書について最終確認を行った。  
第1号議案の内、本日の理事会（第74回）の議事内容を追加要。但し、記載事項が詳細に渡ることから、総会での説明は要旨に絞ることが必要故、適宜会長に圧縮して頂く。  
第2号議案：会計監査済みの資料を報告。  
第3号議案：委員会活動で前回未記載の部分を追記。広報次世代委員会は、勉強会の開催、会員向け情報発信の充実を図ることを主眼にした活動を予定。このため、WEBサイトのセキュリティー強化も行う。  
今後のビジョン委員会は、法人化の検討（NPO法人）を明記した。表彰委員会の記載内容で、個人名の記載はしないこととした。  
収支予算は、前回理事会の指摘事項を反映した修正案を事務局から提案。  
退会会員が1社あり、法人会員増2社の予算は現時点では見通せていないが、本案での実行が承認された。  
“将来の布石”としてJDA活動活性化及び法人化検討等の費用を予備費として計上。  
一方、賃貸料、業務委託費、予備費については昨年比で圧縮し、全体としては昨年度同様の予算（マイナス30万円強の赤字予算）とした。尚、会員向けサービスとしての

HP 維持・更新費は増強した。

第 4 号議案: 前回理事会決定事項を反映した。誤字が 1 箇所あり要修正(表彰委員会)。

第 5 号議案: 前回理事会決定事項である第 3 条・事務所設置場所に加え、第 9 条・会員の入退会時の会費取扱いについて事務局案を起案した。第 3 条については承認されたが、第 9 条については非承認となった。

報告事項 2 件について審議した。報告事項 1・表彰制度の規約改定については付則の議決日を第 74 回理事会に修正することを条件に、報告事項 2・事務所移転については原案のままで承認された。

## 2. 委員会活動（報告及び協議）

(1) APDA 委員会: 資料 21 にて栗原顧問から報告。第 12 回 SWA-APDA ジョイントカンファレンスのプログラムが確定したこと及びその発表内容がユニークであることから、関心ある方の聴講を呼びかけられた。また、次期 APDA ジョイントカンファレンスの開催場所は、2019 年度は中国(MIAC)、2020 年度は日本(JDA)を想定しているとのこと。APDA の年会費は無料であるが、カンファレンスの開催費用は主催者（開催国）が負担することになっているので、予算化が必要となる。

(2) 次期 JDA フォーラムについて: JDA の正味財産は年間の事業活動費を下回っていることに加え、事業活動費は赤字体質であること及び JCD との連携は InterAqua へのブース出展が条件となっており、その開催時期が中国の春節に近いことから海外の参加者勧誘が難しい等の問題があるので、今年度の開催では JCD との連携見直しを考えていることが報告された。

今年度は 12 月上旬(12 月 3 日の週)に、例えば、ゲスト(国内から 2 名程度)の講演(1 時間程度)と会員企業のプレゼンテーション(2 時間程度)及びパネルディスカッション(1 時間程度)とし、費用をかけないでやることを想定。事務局及び会員企業へのマンパワーの負担増となるが、どの程度の負担になるのかは実際にやってみないと解らない面もあるが、今回はトライしてみたいと考えているとの趣旨説明があった。

これに対して、1) JDA フォーラムは会員にとっては大きなイベントであること、2) みすばらしくはしたくないこと、3) 会場は良いところが必須との意見が出された。

上記を踏まえ、JDA フォーラム検討委員会(7 月 3 日開催予定)にて収支計画を立てる。

尚、InterAqua 展示について、個社が直接出展する方式とするか、昨年同様、JDA パビリオン方式とするか、については継続検討となった。

以上の背景を踏まえ、第 3 号議案の来年度収支予算の内のセミナー費の内、インターアqua 展示の補助項目を修正要。(インターアqua を削除する)

## 3. その他

法人会員(クボタ)から退会届けが出されたことを報告。今回の退会届けは、年度が始まった後であり、年会費の請求はまだ行っていないが、この年会費の取扱いをどうするか、事務局からの提案(資料 3 2 参照)に基づき検討を行った。その結果、会員が退会する場合は、未納の入会金および会費は負担すべき義務のあることが会則第 9

条に記載されていることから、例年同様の請求時期に会費請求を行うことを該社に通知することとなった。なお、今後は退会届出書に、本件の注記を付記することをあわせて決定した。

尚、これに関わる規定の制定や、会則の変更は行わない。但し、第9条には会則の誤字脱字があるので、それについては修正を行う。

## II. 委員会活動

### II. 1 IDA委員会

- (1) IDA 理事会 (2017 年 4 月 26 日、開催地：スペイン／マドリッド) に参加。IDA の規約改正、MIAC(中国)の Regional Affiliate 昇格、IDA-WC2019 の UAE／ドバイでの開催等に関して議論し承認された。
- (2) IDA 理事選挙 (Term18) に JDA から藤原副会長、黒川副会長が立候補し選出された。この結果、JDA 関係の IDA 理事は上記 2 人に加え、栗原特別顧問 (APDA 代表)、房岡理事 (JDA 代表) の 4 名になった。
- (3) IDA 理事会 (2017 年 10 月 15 日、18 日、開催地：ブラジル／サンパウロ) に参加。今回は役員改正の理事会のため下記 3 回実施された。
  - 1) 10/15 (10:00-13:00) : 旧理事 (Term17) による最後の理事会
    - ①会長挨拶
    - ②各委員会からの報告：全て承認
  - 2) 10/15 (14:00-18:00) : IDA の会長・副会長選挙
    - ①会長：Miguel 氏 (Suez・フランス) が 2 名の候補から選挙により選出された。
    - ②副会長：第 1 ; Rachid 氏 (BESIX Sanotec・UAE)、第 2 ; Li 氏 (ROPV・中国) が選出された。
    - ③他の役員も全員承認された。
  - 3) 10/18 (17:30-19:30) : Term18 (2017-19) 第 1 回 Board Meeting
    - ①新会長挨拶
    - ②各委員会の委員長選出があり、JDA からは  
藤原副会長：Awards Committee の Chair  
黒川副会長：Research & Development Committee の Co-chair
- (3) Global Water Summit 2017(マドリッド、4 月 24 日～25 日)、IDA World Congress (サンパウロ、10 月 16 日～19 日) に参加。

### II. 2 APDA委員会

- (1) IDA Sao Paulo 国際会議の期間を利用し、2017 年 10 月 16 日に第 12 回 APDA 理事会を開催した。4 か国から参加があり、主な議題は次のとおり。
  - 1) 各アフィリエートからの報告。
  - 2) APDA 理事メンバーの確認。
  - 3) 次回の APDA Conference は、SIWW 開催期間中のシンガポールとし、SWA-APDA Joint Conference (2018/7/12) を決定した。
- (2) KDPA-APDA Joint Forum を韓国釜山で開催した (2017 年 11 月 24 日)。

### II. 3 広報・情報委員会

- (1) 特別講演会 (講習会活動)

2017 年 7 月 28 日 (金) 開催の第 17 回日本脱塩協会総会に合わせて、特別講演会を開催した。プログラム及び講演者は次の通り。

  - 1) 「海水資源と水素エネルギー」  
日本大学 教授 西宮伸幸 様
  - 2) 「安定運転のための RO 膜技術」

栗田工業株式会社 川勝孝博 様

3) 「米国における再生水・再利用の最新動向」

メタウォーター株式会社 松井康弘 様

4) 「会社案内」(新規入会法人会員)

日本工営株式会社

東芝三菱電機産業システム株式会社

ゼオライト株式会社

(2) ホームページ刷新

ホームページを 11 月 15 日に刷新し、協会企業の事業内容や、協会主催イベントの発信を行った。

(3) 情報発信活動

2018 年 3 月 2-3 日開催の 3rd International Forum on Asian Water Environment Technology (IFAWET)に協会として参加、協会を代表し東レシンガポール殿が発表した。

(4) 展示会出展

InteAqua2018 に JDA PAVILION として形式 A (ブース展示) 3 枠、形式 B (ポスター展示) 8 枠の出展を行った。(ホームページの EVENTS に掲載)

## II. 4 JDA フォーラム委員会

- (1) 今年の 2018 JDA FORUM は、『世界の今を知るエキスパートが語る海水淡水化と水再利用』と題して、世界的に著名な専門家である「Nikolay Voutchkov 氏 (主に海水淡水化分野) と Valentina Lazarova 氏 (主に水再利用分野)」のお二人を招聘し、2018 年 2 月 15~16 日の 2 日間、昨年同様、東京ビッグサイトにて開催した。
- (2) 1 日目はワークショップとディスカッションとし、先ず招聘講師から「国際水市場における海水淡水化と水再利用分野の動向分析及び要素技術等ビジネスに必須な情報」について講演して頂き、その後パネルディスカッションを実施した。参加者数は総数 62 名 (会員 39 名、民間非会員 14 名、官公庁 7 名、講師 2 名) と昨年比 9 名増となり、好評であった。
- (3) 2 日目は昨年同様、1 日目の有料参加者に限定し、且つ非公開で招聘講師との個別面談会を開催。民間企業 6 社と個人 1 名の参加があり、有意義な面談会であったが、全ての時間枠を埋めることは出来なかった。

# 2018 JDA Forum, Japan



February 15-16, 2018 in Tokyo, Japan

**"Latest Workshop and Panel Discussion with Distinguished Experts for Seawater Desalination and Water Reuse in the World"**

## Invited Lecturers



Nikolay Voutchkov  
President, Water Globe Consultants, LLC from 2009.  
He has over 25 years of experience in the field of seawater desalination mainly.



Valentina Lazarova  
Former head of water reuse department of Suez. She was a senior expert and technical advisor for support to operations in Suez. She is also chair of water reuse specialist group of IWA.

## Moderator



Mr. Yoshinari Fusaoka,  
Director, JDA

## Panelists



Dr. Masaru Kurinara,  
Former President, JDA



Dr. Hideo Iwahashi,  
President, JDA



Dr. Hideaki Kurokawa,  
Vice President, JDA



Dr. Yasuhiro Matsui,  
Director, JDA



Dr. Atsuo Kumano,  
JDA

フォーラム講師の方々



フォーラム会場の様子



フォーラム終了後の懇親会での記念撮影

## II. 5 今後のビジョン委員会

- (1) 造水分野において事業拡大を目指している法人・団体へ、委員各位の強力な勧誘活動により、29年度は3社(日本工営、東芝三菱電機産業システム、ゼオライト)の加入が実現し、その結果、法人会員数は23社となった。
- (2) 平成29年の11月と12月に掛けて、‘会員各社にとり役に立つJDA’を目指して、今年度入会各社を含めた近年加入会員との意見交換を目論み、3社と打合せを実施した。今後対象を拡げて行きたい。

## II. 6 表彰委員会

- (1) 平成29年度の功労賞(第3回)として、JDA会員より推薦のあったJDA前会長・秋谷鷹二氏を選出し、平成29年7月28日開催のJDA総会にて同氏へ賞状・賞牌を授与した。同氏はJDA役員(会長・副会長)を通算12年間務められた。
- (2) また今回、初の特別賞となるが、JDAフォーラム初の黒字化に貢献されたことから、丸山義治氏、竹内 弘氏の2名に特別賞を授与した。